

令和4年度 学校評価における自己評価について

認定こども園 鳥取第五幼稚園

1 園の教育目標

『 明るく たくましく こころ豊かな子ども』

～すこやかな心と体をもち、自分で考え行動する子ども～

- (1) 自ら考え、自主的に行動する子ども
- (2) 健やかな心と体をもち、のびのびと生活する子ども
- (3) 友だちの気持ちを思い、誰とでもなかよく遊ぶ子ども
- (4) 素直に感動する心をもち、創造豊かに活動していく子ども
- (5) 豊かな生活経験の中から物事を知的に理解し、判断できる子ども

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに、設定した学校評価の具体的目標や計画

○「またやってみたい 明日につながる保育」

～一人一人が主体的に遊ぶための環境や援助について考える～

- ・子どもの育ちや課題点を探りながら主体的な遊びが広がる保育環境作りを行う。
- ・PDCA を用いて日々の保育実践や事例研究を省察し、資質向上を目指す。
- ・継続して見えてきた子どもの姿の読み取りや評価を行い、保育環境の意味を考える。

○衛生管理の徹底と感染対策に配慮した教育保育活動を考える。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理 由
(1)教育活動の充実 ・健康な体づくり ・異年齢保育の充実 ・環境構成と援助の工夫	A	・畑やプランターでの栽培活動を通して野菜の生育に興味をもち、いろいろな食材を食べてみようという意欲に繋がった。また、食材を色別に分類することで食の大切さ等に気づき、進んで食べようとする意欲に繋がった。 ・積極的に外遊びを取り入れ、「走る」「登る」「ぶら下がる(雲梯)」等、全身を使った遊びに取り組んだ。 ・外遊びや散歩に加え、後半は室内での保育交流も取り入れた。担任が見通しをもち計画することで、自然な関わりが見られるようになり、相手を思いやる姿が見られるようになってきている。 ・園庭の環境は昨年度に引き続き、子どもの遊びの様子に合わせて改善し再構成を行った。環境構成については、職員間で話し合い共通理解をし、実践したことが、子どもの主体的な姿に繋がっている。 ・保育室でも、安心して遊べる環境を基に、興味関心を探りながら年齢に応じた主体的に遊べる環境を工夫していく必要があると感じている。

(2) 教職員の資質向上	B	・研究テーマについて意見を出し合い、職員が一丸となり試行錯誤しながら研究していったことは、大変有意義だった。今年度は園全体としての取り組みだったので、今後は一人一人の資質向上に向けた研究保育を行いスキルアップへと繋げていきたい。 ・研修に出かけた(受講した)際の報告の仕方を工夫する必要がある。
(3)特別支援教育	A	・家庭や専門機関と連携を深めながら、一人一人の発達や個性、支援の在り方について職員間で共通理解し、丁寧な対応を心がけた。 ・就学時健診、入学前の聞き取りでは、園での様子、保護者の願いを丁寧に伝え、スムーズな移行となるよう、連携をとるようにした。 ・保育時間が長い園児に対して、職員間で話し合い情報共有することで、同じ対応を心掛けることができた。
(4)健康・安全管理	A	・避難訓練や安全指導はその都度振り返りを行い、反省を次に生かせるよう話し合った。次年度は、地域の小学校区合同で引き渡し訓練を行う予定である。 ・不審者対応訓練は、外部講師を依頼して実践することができた。職員の対応訓練では、指導を受けたことを報告することで、職員の意識が高まった。 ・保護者アンケートより、安全対策として「玄関ドアを開けると音がする仕組み」をしてはどうかとの意見をいただいた。検討していきたい。 ・園バス降車後のダブルチェックは、声を掛け合いながら日々行い定着した。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	・子ども達が主体的に活動し、遊びが充実していくような保育環境作り(園庭改善)や援助の在り方を遊びの記録を基に職員間で話し合い、じっくり遊び、継続して遊びを楽しめる場(環境)や時間を確保していくようにした。保育環境を整えたり見直したりすることで、「工夫して遊ぶ力」「好奇心・探究心の広がり」「目的をもち主体的に遊ぶ力」の育ちを感じている。園だよりやクラスだより、HPを通して、遊びの様子や育ちについて発信することで、全員の保護者の方が、園庭遊び等の自然の中での遊びを楽しんでいると感じてくださっている。「年齢に応じた室内遊びの環境の工夫」についても、引き続き取り組んでいきたい。 ・地域の自然を通しての地域の方との交流について、今後は具体的に取り組んでいきたい。 ・状況に合わせた感染対策を行いながら、行事に取り組んだことは、保護者からも一定の評価が得られている。小規模園だからこそできる取り組み方について今後も検討していきたい。

	・情報の発信については、引き続き HP 等を積極的に活用し、教育方針や子ども達の日々の様子、育ちについて丁寧に行っていく。
--	---

◎「3. 4.」の評価結果

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
○教育の充実	・一人一人の幼児理解に努め、援助を工夫することで個々の成長に繋げていく。また、育ちをつなぐための職員間の連携や共通理解をするための話し合いを行う。 ・小規模園ならではの異年齢保育の交流について職員間で話し合い、実践する。
○健康・安全管理	・マニュアルの見直しを行う。危機管理についての話し合いを行い、園内外の怪我や事故を未然に防ぐ。
○幼保小連携	・接続カリキュラム作成に向けた話し合いを行い、年度末に完成した。次年度は職員同士の連携も深めていく。 ・内容を工夫しながら、保育園の年長同士の交流計画を図る。
○教職員の資質向上	・園外研修(オンライン研修も含めた)への積極的な参加。 ・音楽教育(リトミック、マーチング)について、研鑽を積む。
○情報発信	・園務システム活用の充実を図る。 ・HP を活用し、在園の保護者はもとより外部の方へ、園の教育の様子、遊びの様子を積極的に情報発信していく。